

Support



令和 8 年 10 月 27 日
編集・発行
学校支援課 広報担当

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

新潟市の子どもの学力を伸ばすための授業づくり ～令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて～

学校支援課では、この度、市が目指す学校教育の視点から「主体的・対話的で深い学び」を実現し、児童生徒が学習指導要領に定められている資質・能力を身に付けるための具体的な指導改善の道しるべを考えました。



1 指導改善の道しるべ

教科の本質を捉えた授業づくり

(1) 主体的に課題を解決する力の育成

- 道具箱の道具としての「知識及び技能」を頭の中に整理し、目的や状況に応じて必要で最適な道具を選び、課題を解決する「思考力、判断力、表現力等」を育てる
- 教材研究に基づいた単元デザインを下記の 4 つの視点から構想し授業改善を進める
 - ・子どもに「この単元で何を学んだか」と聞いたとき、「これを学んだ」と言える「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」が定まっているか
 - ・単元のどこで、どんな学習活動を通して「知識及び技能」をしっかりと育成するのか、また、その知識及び技能を活用して、単元のどこで、どんな課題解決に取り組む中で「思考力、判断力、表現力等」を育成するのか
 - ・1 時間の授業で、また単元全体で「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を育む学習活動の往還をどう仕組むか
 - ・単元のどこで、何を目的に協働的な学び・個別の学びを行うか
- 1 時間の授業の要素（何を学ぶのか・どう学ぶのか・追求取組・何を学んだのか・どう学んだのか）とその時々の子どもの様相を、常に念頭に置く
- ・追求場面こそ丁寧に机間巡視し、取組の様子を見取って形成的評価を行い指導助言することにより一人一人に資質・能力を育成する

(2) 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- 考えの根拠（なぜそうなるのか）や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- 思考の過程が分かる書き方や書く内容を明確に示すなど、書く指導を充実する

(3) 多様な視点から考える力の育成

- 情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討し、思考・判断できるようにする

成長を促す生徒指導と授業の一体化

(4) 発達支持的生徒指導の重視による自己指導能力の育成

- 授業は生徒指導の実践の場であることを踏まえ、次の実践上の 4 つの視点を意識する



- ・自己存在感の実感：深い児童生徒理解と教材解釈による適時適切な支援により、個々の意見の取り上げ方、見せ方に配慮し、児童生徒が「自分が大切にされている」、「ここにいていい」実感を促進する
- ・共感的な人間関係の育成：相手の話の聴き方、反応のルール、関わる時のルールなどを教え、児童生徒の「意見が他人と違って否定されない」、「みんなは自分の思いを分かろうとしてくれる」、「相手の思いを知ろうとする関係性」を育成する
- ・安心・安全な居場所づくり：愛のある生徒指導により、ダメなことはダメであると同時に、間違いが受容され、喜怒哀楽を表出できる関係性がある場づくりに努める
- ・自己決定の場の提供：テーマや課題解決の方法を選ぶなど、児童生徒が自分でどうしたいか考え、決断する場を提供する

UD(ユニバーサルデザイン)と授業の一体化

(5) 多様な子どもたちの「誰に」「どうするのか」を考える

- 多様性を尊重する態度を育成するとともに、互いのよさを生かして解決できるようにする
- 児童生徒の傾向に応じた教授行動をUDの視点から考え、意図的に実践する
 - ・UDの7つの視点（公平性・柔軟性・機能性・わかりやすさ・安心感・楽に使える・十分な広さ）から子どもの傾向に応じた効果的な視線（アイコンタクト・立ち位置）・机間指導支援・指示説明等の教授行動を構想し、実践する

学力・学習を支える基盤づくり

(6) 主体的な課題解決のための有効なICT活用の促進

- 端末を効果的に活用した分かりやすく深まる授業づくりを進める
- 学校・GIGA支援センターのリソースを生かし、ICTスキルの確実な定着を図る
 - ・ICTは学びを深めるための強力な道具である。子どもたちが楽しそうに活動しているだけでなく「深い学び」になっているか、ただ見栄えのよい成果物を流し込む作業になっていないか見直し、授業改善を進める。

(7) よりよい学習習慣

- 家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、より良い習慣づくりを推進する
- 豊かな思考・判断の基盤となる児童生徒の語彙力や読解力、想像力を高めるため、読書活動を活性化する

授業改善を進める体制づくり

(8) 学力と授業力を持続的・継続的に高める組織づくりと指導体制

- 学校全体で目標を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的に課題解決に取り組む
- 目の前の児童生徒の現状把握から、取組の実施、評価、改善を図る指導体制の確立

新潟市の平均正答率の経年変化について（国語、算数・数学）

令和8年度は、全国平均とほぼ同じですが、経年変化で見ると、やや下がっています。

各校では、無答率の高かった問題、全国と比べて正答率の低かった問題について、学習指導要領の内容を確認し、指導をお願いします。取組の参考に教科調査の結果に係る授業改善のポイントをお示しします。

